

石仏と一・さくる

No.126

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

2026年7月31日 発行

事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941

ホームページ <http://niigata-sekibutu.vox.jp>

石仏散歩

庚申塔・二十三夜塔から視る
往時の農耕社会

上越市 栗間 啓 志

此の度の上越地区石仏見学会では、高田平野の保倉川流域(浦川原区・大島区)に散在する庚申塔と二十三夜塔を多数(十二カ所)巡見した。庚申塔とは庚申講に集う講中が数年間の勤行実践後に、庚申信仰の証と功德祈願の目的で建立したものとされている。(二十三夜塔も同様の主意)しかし、この限られた地域になぜこれ程多くの庚申塔や二十三夜塔を今でも確認できるのだろうか。

因みに私は高田(旧城下町)で生れ育った者であるが、町屋の近辺に庚申塔の存在は全く見知らない。その実存が明確なのは町の中心部から十キロ以上離れた農村落の一角である。まず、この地域の地勢的特徴を挙げると保倉川の中心的存在がある。保倉川の豊かな水量は穀倉地域一帯の水田を潤すと共に、近世には直江津港までの年貢米廻漕路でもあった。従い、この流域一帯の農耕は往時より稲作中心であったことは明らかである。もとより庚申信仰が農村落に広く伝播流布した背景として、庚申が農神(作神さま)としての尊崇対象であることは自明であろう。

しかし、ここで庚申講と二十三夜講の信仰教義を語る事は本稿の趣旨ではないので割愛するが、双方に共通する基本的様態として、集落の講中が定まる日に特定の家に集合して行う宗教的な勤行に続く懇親交流の実相に注目したい。講に因る親交では、その一興のみに終わ

らず、稲作中心の生業に係わる各種の協議が行われたことは想定に難くない。その話し合いこそが、農村落の住民にとって重要な主題となる事にここでは着目したい。一般的に、稲作作業の大筋は以下のような行程となる。まず春先には、上流から集落全体の田圃に流れ下る用水路の枯葉や泥さらいを集落共同作業で行う。決して自己の田圃だけに水を引く為ではない。続いて田起し、田植え、畦の草刈り、稲刈りなど季節毎の稲作関連作業の何れも、各集落を母体とする共同作業の連携で成り立っている。集落の祭祀行事も又しかりである。それらは「結」と言う相互扶助の精神に基づく共同労働(労働交換)に生かされているものである。即ち「講」による集落の基盤と稲作農業は共通意識の上に成り立っている状況把握が重要である。結果として、庚申講や二十三夜講に集落の一員として参列し、申し合わせ協議に同席することが生業維持には欠かせない条件であったと考えられる。もしも集落の取り決めや慣習、掟にそぐわない時は、極端な場合「村八分」と言う制裁を課すこともあり得たことが想定される。

言うならば、保倉川の流域に庚申塔と二十三夜塔を今尚数多く確認できるのは、往時に於ける各集落の協調性と結束力を背景として勤しんだ農耕社会の様態を今に伝える証しとして理解されてくるのである。



大島区田麦の路傍

保倉川流域の庚申塔・二十三夜塔を訪ねて

―上越地区見学会報告―

上越市 栗間 良子

今回の見学会は、豪雪地域の雪解けを待つて、例年よりひと月遅れの開催でした。

また今回は、見学対象を庚申塔と二十三夜塔だけに絞り込んだ珍しい見学会でした。しかし言い換えると、その二種だけで一日の見学会が終わるほど、保倉川流域に庚申塔と二十三夜塔が数多いことであり、興味と期待が膨らむ中で一行のバスは出発しました。

現地の見学が始まったなかで、最初に強い印象に残ったのは、ロウソクの黒いススが庚申像の足元に付着したままの庚申塔や、すぐ横に賽銭箱が用意されている庚申塔、また説明によると、お盆の頃に生花がつけられていた庚申塔など、現在でも

庚申信仰がこの地域には生きていて様子が見えたり、伺えたことでした。

一般的に石仏とは、過去形の遺産のように思われていますが、現



浦川原区東俣の集会所前

在進行形の石

仏の存在に触

れたことは大

きな収穫でし

た。これも説

明の中にあっ

たエピソード

ですが、下見

調査の際に偶

然、散歩して

いる近在の老

女と立ち話をした際に、ご本人が集落に嫁い

できた当時(戦前の頃)でしょうか?、二十三夜

講の日には農作業は一切休みとして集落の女

性達皆が小さな寺に集まり、料理やおしゃべ

りなどで、「そりゃあ楽しみだったものサ…」

と、懐かしそうに語ってくれたと聞きました。

その昔、二十三夜塔を囲んで楽しく過ごした

ご本人から直接、思い出話を聞けるのは素

晴らしい事と思われました。

今回の石仏巡見では十カ所以上の庚申塔と二十三夜塔を見学しましたが、どこも寺院などの敷地(境内)ではない野辺の丘や脇道などに設置されていました。これは庚申塔や二十三夜塔



大島区田麦の丘陵

の基となっている信仰が、特定の仏教宗派によるものではなく、庶民生活に根差した「民間信仰」によるものが、その背景だろうとの説明を聞き納得しました。

今回見学した二十三夜塔は、すべて文字刻塔でしたが、庚申塔には様々な容姿の青面金剛像が彫られていて、邪鬼を踏みつける威厳よりも、手作り感のある素朴な表情に親しみさえ覚えるものが数多くありました。ただ、どの庚申塔と二十三夜塔も並んで設置されていますが、ほとんど二十三夜塔の方が、庚申塔よりも大きな石に彫られているのが不思議に思われました。最後に訪ねた板山不動尊では、薄暗い洞窟の奥



大島区田麦・竹林寺前にて

に二百数十体の石仏が整然と配列されている様子が圧巻で、深く印象に残りました。

私は上越市に住む一市民ですが、このような奥深い地域にまで足を延ばすことは滅多にあ

りませんので、学びの多い見学会だったと思います。ただ残念だったのは、色々な事情が重なり参加者が今までにない少人数(十三名)であつたことでした。

松代・松之山の石仏と名所を歩く

―中越地区見学会に参加して―

柏崎市 吉川 孝子

中越地区見学会は六月十八日、「松代・松之山の石仏と名所」をテーマに開催。深緑の美しい季節を迎えた当地を散策しながらさまざまな石仏と出逢う、またとない見学会の機会をいただきました。

参加者は二十一名。柏崎アルフォーレを出発、道の駅まつだいふるさと会館で合流。

松代・松之山方面への見学が始まりました。



松之山小谷・白山神社



松之山大荒戸の盤持石(力石)

松之山小谷・白山神社の石仏群では、まさに今、徳利で酒を酌み交わす双体道祖神の姿。秋葉大権現や有明山(長野県穂高有明の有明山を御神体)の石仏もあり、講中があつたことを渡邊三四一さんから説明いただきました。

一〇〇メートルほど先にある水梨・白山社では迫力ある玉取り狛犬が社を守り、境内には鹿嶋宮、鬼門神社、風神社、等、苔生した石仏、石祠の数々。大荒戸では樹齢三百年余りの夫婦杉根元に並ぶ庚申塔群を見学。大きな「盤持石」を持ち上げようとチャレンジした勇氣ある会員に歓声があがりました。

大棟山美術博物館近くの十二神社では井上光威さんが発見した県内では貴重な男女が互いに紐を持つ双体道祖神。松之山の小正月行事「むこ投げ」で知られる温泉薬師堂の石仏群、母性信仰と当時の独

創性あふれる乳出し子安観音を見学。

圧巻だったのは、明治時代に造立の奇想天外な石仏五十五基が並ぶ大蔵寺高原の滝の上不動石仏群。山岳信仰や修験道の霊場だったこの地で静かに佇む個性豊かな異形の様は、しばし時を忘れるほどでした。

美人林の散策や越後妻有大蔵寺高原キャンプ場の美しい景色を満喫、レストラン希望館でワラビ、アザミなど山菜たっぷりの食事をいただき大満足。帰りはドイツ人建築デザイナー、カール・ベックスさんが手掛ける古民家再生の竹所集落を見学し帰路につきました。



滝の上不動石仏群の前で



事務局だより



一泊有志見学会(10月 22・23日)については同封の案内チラシをご覧ください。

同封チラシの一泊有志見学会と左記の地区見学会を計画しました。ぜひ、大勢のご参加をお待ちしております。

◇下越・新潟地区見学会のお知らせ

日時 10月1日(木)9時～16時頃

テーマ 新発田・聖籠の砂丘と加治川から新発田城へ

集合 ① 新潟駅南口バスロータリー 9時

② 道の駅豊栄(国道7号) 9時30分

解散 ① 道の駅豊栄 15時30分

② 新潟駅 16時

見学地 次第浜 日枝神社・猿地蔵・永泉寺・泉

明和尚遭難の地・九頭竜権現塔・菊

水・新発田城・加治川治水記念公園・

紫雲寺・不動院など予定

昼食 和食処・清水苑

参加費 5000円(バス代、昼食代、資料代、

保険代等を含む)

定員 20名

申込み 9月20日(日)締切り(先着順)

新潟事務局 堀内正子まで

携帯 090-600094682

電話 025-2437640

◇令和8年度総会を開催しました

今年度総会を5月23日(土)、初めての会場であるミライエ長岡(4階・ミライエステッ
プ)にて開催しました。第一部の公開講演会
は36名(一般11名、会員25名)の参加でした。

講師の横浜都市発展記念館主任調査研究
員・吉田律人さんからは「蒲原平野と東京の
銭湯―越後の石造物は語る―」と題し、東京
の銭湯経営者に何ゆえ越後・蒲原平野の出身
者が多いのかについて、その歴史的な経緯や
同郷人による人的ネットワークの強さなどを、
出身地の鎮守に奉納された石造物(石灯籠や
鳥居、玉垣など)を手がかりに解説されまし
た。また渋谷の発展に寄与した「弘法湯」の経
営者・佐藤豊蔵が西蒲区打越地区の出身であ
ることなど、蒲原出身者の関東一円での活躍
ぶりを詳細な調査をもとに紹介されました。
フロアとのやりとりで印象的だったのは、



東京で銭湯を営んだ親戚のいる会員が、当日
の配布資料にその親戚の名前と銭湯名を見つ
けることができた感激していたことでした。
何という精度の高い調査かと驚いた次第です。
第二部の総会(14時40分)では令和7年
度事業報告・決算報告、令和8年度事業計画・
予算案が審議・承認されました。また会計監
査を長くお務めいただいた岩野肇子さんが退
任され、後任については改めて役員会で選任
することとなりました。

第三部の懇談会では、講演会に関連した話
題となり、酒造りの越後杜氏や豆腐屋など新
潟出身者が多い業種について意見交換があり
ました。

総会終了後の懇親会(富寿し)では講師の
吉田さんを交え15名の参加でした。

なお、欠席者へは総会資料を同封しますの
でご確認ください。

お願い 今年度(令和8年度)の会費未納の
方には振替用紙を同封しました。早めにご納
入願います。

編集後記

新年度最初の会報をお届けします。総
会資料や会員名簿、一泊見学会チラシな
ど同封物がたくさんあります。ご査収く
ださい。

上越地区事務局 栗間 啓志